

赤十字の活動紹介

国際委員会 テロで安全重視
事業局長



赤十字の使命について語るクレーヘンベール事業局長（広島市中区で）

（UNITARユニター）アジア太平洋地域広島事務所で開かれ、約五十人が参加した。

ク事業局長は、原爆投下直後の広島に医薬品を届け、当時の同委駐日首席代表、マルセル・ジュノー博士を取り上げ、「博士のように、私たちは百四十年前から世界中で人々が苦しむ第一線で活動を続けている」と赤十字の活動を紹介。

一方で、米・同時テロなど、「活動上、安全面などで（最近）変化がある」とし、同委のイラク支援で一月上旬、同委関係者が殺害されたことに触れ、「紛争地などで活動する際のメンバーの安全が、非常に懸念される」と報告。「我々はあくまで政治的でなく人道的かつ中立な立場として活動することをメッセージとして発していかなければならない」とした。

赤十字国際委員会（本部・ジュネーブ）のピエール・クレーヘンベール事業局長の講演会「独立した人道的行動の将来」が、広島市中区の国連訓練調査研究所